

## 昭和56年度通常総会開かる

昭和56年度通常総会はさる5月15日に開かれ、OR学会賞の授与があわせて行なわれました。以下に総会の議事録と、事業報告・計画、定款の一部変更、決算、予算をお知らせします。

### 昭和56年度通常総会議事録

1. 開催日時 昭和56年5月15日(金) 15時～17時
2. 場 所 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 東亜燃料工業㈱会議室
3. 出席者 松田武彦他 821名 (内委任状による出席 776名)

ただし会員総数 1907名 (1/3は 636名)

上記のとおり出席者が定款に定める定足数に達したので、定款第28条により松田会長が議長となり、議事録署名人に矢島敬二、柳井 浩の両氏を選出して議事に入った。

第1号議案 昭和55年度事業報告の件：矢島理事より、昭和55年度事業報告があり、満場一致で承認された。

第2号議案 昭和55年度決算報告の件：中井理事より、昭和55年度収支決算報告(別紙)があり、満場一致で承認された。

第3号議案 定款変更の件：矢島理事より、定款第6条および第7条の変更について提案理由の説明があり、さらに中井理事から補足説明が行なわれ、提案は満場一致で承認された。

第4号議案 昭和56年度事業計画の件：柳井理事より、昭和56年度事業計画について説明があり、異議なく承認された。

第5号議案 昭和56年度予算の件：昭和56年度事業計画にもとづいた予算案につき中井理事から説明があり原案どおり承認された。

第6号議案 昭和56年度および57年度役員の選任：定款第15条に従い、昭和56年度および57年度役員候補者が発表され満場一致で選任された。

以上で議案の審議を終了し、日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞、普及賞、文献賞、事例研究奨励賞の受賞者発表ならびに表彰に入った。

森村表彰委員長ならびに原野表彰副委員長より選考経過の説明があり、会長より第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞は中国電力株式会社に、第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞は河田龍夫、

小林宏治の両氏に、第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞は、今野浩氏に、第1回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞は、西田俊夫グループ、瀧口幸弘・金子準二の両氏、ならびに木下知己氏にそれぞれ授与された。

引続き、新フェローとして千住鎮雄氏が紹介され、会長よりフェロー記が贈呈された。

以上で総会の議事を終了し議長は閉会を宣した。

### 昭和55年度事業報告書

#### I. 事業の状況

##### 1. 研究発表会

- (1) 3月27日、28日の両日、仙台市民会館において、第47回研究発表会を開催し、3月29日には、大昭和パルプ岩沼工場および札幌ビール仙台工場を見学した。特別テーマ：省エネルギー、特別講演：

1) 省エネルギーに関する諸問題 外島 忍

2) 回路網流れの連続体モデルと道路網解析

(仙台市)への応用 田口 東

3) わが国エネルギー問題の認識と課題 加藤幸雄  
特別セッション(5件)、一般発表(86件)、ペーパー・フェア(21件)

参加者数は 267 名であった。

- (2) 10月7日、8日の両日、電気通信大学において、第48回研究発表会を開催し、10月9日には、日本電信電話公社横須賀通信研究所を見学した。

特別テーマ コンピュータとOR

特別講演

1) コンピュータ・サイエンスとビジネス・デ

ータ・プロセッシング

鶴澤昌和

2) ORにおけるコンピュータの利用技術 小林弘和

3) これからの経営計画とコンピュータ 味村重臣

一般発表(99件)、ペーパー・フェア(12件)、参加者数は 360 名であった。

##### 2. シンポジウム

- 10月6日、電気通信大学において、第8回シンポジウム「ゲーム理論とその応用」を開催した。参加者数は36名であった。

## 3. 研究部会活動(表1)

表1 研究部会終了, 中間報告

\*印: 研究部会終了

部 会 名	主査, 幹事	メン バー	開催 回数	内 容	場 所
ゲーム理論と その応用*	鈴木 光男 (東工大) 武藤 滋夫 (東工大)	9名	16回	理論面では, 展開形による均衡概念の強化, 情報構造 の変化の影響, 安定集合の決定などで成果をあげ, 応 用面では公共的意思決定, 情報財市場, 寡占市場の分 析を行なった. また, ゲーム理論のシンポジウムの組 織をした.	東京工業大学 情報科学科会 議室
数 理 計 画 法	茨木 俊秀 (京 大) 石井 博昭 (大阪大)	37名	9回	多目的法に関する最近の研究成果をはじめ, 水道シス テム, 製鉄工業への数理計画法の応用例などいくつか の最新の成果が紹介された. また, 数理計画法全般の 理論的成果や在庫理論等のORの他の分野との関連も 示された.	京大会館 新任友ビル
日本における社 会システム分析	小島 光造 (小野事務所) 小岩 明 (社会環境 システム研)	30名	11回	「日本的リソースマネジメント研究部会」の継続研究 として実施した. 特に「高齢化に伴うヒューマンリソースマネジメント の問題と対策」について貴重な成果が得られた.	日本能率協会 会議室
数 理 計 画	刀根 薫 (埼玉大) 大山 達雄 (埼玉大)	23名	8回	数理計画法全般にわたって, モデルにおける定式化, 理論の構築, 応用実施例あるいは, 問題解決の方法と してのアルゴリズムの効率化等の研究成果の報告の 場, 情報交換の場として活動を行なっている.	統計数理研究 所
実 施 理 論	松田 武彦 (東工大) 太田 敏澄 (東工大)	39名	10回	OR/MSのモデルやコンピュータによる情報システム といった情報技術の経営システムにおける実践過程 を, 包括的に議論しうる行動科学的な理論の開発およ び検証を行なっている.	東京工業大学 工学部会議室
創造性開発の数 学モデルとコン ピュータ・ベイ ズド・デザイン	三重野博司 (東理大) 宮崎 聖蔵 (電々公社)	20名	10回	創造の工学的アプローチを目的とする. 認知科学等を 基盤にして創造過程の数理モデルを作り, 解析・シミ ュレーションを行なう. 応用として創作・設計・経営 計画に役立つコンピュータ・ベイズド・デザインをつ くる.	22森ビル 303号室
経営コンサルタ ント	上田亀之助 (上田イノベ ーション研) 樋爪 徹 (山之内製菓)	23名	11回	きわめて複雑で, たえまなく変化する社会的有機体の よりよい経営, より健やかな経営の実現のために適切 な助言を行なうには何を研究したらよいかを討論し た.	東京都労務福 祉会館
政 策 問 題	湊 晋平 (武田薬品) 細貝 康夫 (協同システ ム)	27名	10回	政策科学分野につき文献紹介, 研究発表と討論を行な い, 時には合宿等による課題の総合検討と関連部会協 力による特別講演会を行なった. 56年度はさらに学会 発表, 特集号報告のほか文献翻訳等を検討する.	三菱総合研究 所会議室
予測とその周辺 課題	西野 吉次 (早 大) 浪平 博人 (ブリヂスト ンタイヤ)	13名	8回	新しい予測手法に関する情報交換および文献献読や, 各自の予測事例の発表をもとに多方面の視点からの検 討および意見交換を行なった.	早稲田大学 システム科学 研究所
交 通 問 題	横山 勝義 (レールウェ イ・システム リサーチ) 杉野 隆 (新日鉄)	15名	10回	現在交通関係の最大の懸案である各交通機関の適正分 野の想定にアプローチするため, 共通のフィールドと して小荷物の輸送を選び, 自動車・郵便・鉄道・航空 のそれぞれの状況を順次聴き取っている.	東洋経済新報 社会議室

#### 4. 普及活動

(1) 月例講演会 (表2)

表 2

通算回数	開催地区	開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数
第77回	中部	55年6月	線形計画法の新解法について	伊 理 正 夫	35名
第78回	本部	8月	1) A Comparison of the Optimal Ordering Levels of Bayesian and Non-Bayesian Inventory Models 2) Unemployment Viewed as an Operations Research Problem	Bruce Miller John McCall	25名
第79回	本部	11月	議員定数の最適配分法	茨 木 俊 秀	12名
第80回	九州	11月	信頼性・保全性理論の現況	児 玉 正 憲	17名
第81回	本部	56年2月	新しい経営力指標をめぐって ～企業の定性的側面をどうとらえるか～	清 水 龍 瑩	37名

(2) ORサロン (表3)

表 3

通算回数	開催年月	テ ー マ	会 場	参加人数
第23回	55年11月	広島市における都市廃棄物収集計画について	広島大学工学部 計数工学会議室	11名
第24回	56年1月	ORの限界と可能性	大阪中央電気倶楽部	5名

#### (3) モニター制度

今年度より、OR誌をはじめ研究発表会、シンポジウムその他学会活動に対する会員の要望を広く把握するためモニター制度を発足させた。

第1回モニターには31名の方々をお願いし毎月アンケートに回答していただいたほか、研究発表会時にモニター会議を開催した。モニターからは積極的、かつ建設的な意見が多数寄せられた。引続き第2回モニターを2月から27名の方々をお願いしその活動を推進している。

#### (4) 第1回ORセミナー

昭和55年11月20日(木)、21日(金)の2日間「意思決定のための会計情報講座—基礎と応用」に関するセミナーを慶応義塾大学伏見多美雄教授を講師として開催した。参加者は54名であった。

#### 5. 刊行物

##### (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関紙「オペレーションズ・リサーチ」

Vol. 25, No. 3から Vol. 26, No. 2まで12号(本文801ページ)を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、連載講座、事例研究、解説、フォーラム、論文紹介、書評、支部だより、部会報告等を掲載した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol. 25, No. 3「行政の守備範囲」同No.4「自

動車径路誘導システム」、同No.5「政策科学の実践」、同No.6「省エネルギー」、同No.7「受注選択問題」、同No.8「オペニオンテクノロジー」、同No.9「航空のOR」、同No.10「スポーツのOR, PART-II」、同No.11「デンジョン・サポート・システム」、同No.12「モデルの複雑さへのアプローチ」、Vol. 26, No.1「コントリブ・リスク」、同No.2「鉄道のOR」

##### (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌(Journal of the Operations Research Society of Japan)

Vol. 23, No. 1から No. 4の4号(本文388ページ)を発行した。本年度の投稿論文は56編で掲載論文は25編であった。

##### (3) 研究発表会アブストラクト集

春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行した。

#### 6. 国際協力

(1) IFORS(国際OR学会連合)の第9回国際OR会議が昭和56年7月20日から24日までドイツ連邦共和国のハンブルグ市で開催されることになり、日本の代表論文として下記2編を推薦した。

・ A Soil Recycle System Model and the Transportation Problem

横沢芳雄(日大)、松田武彦(東工大)

- The Cutting Stock Problems in the Iron and Steel Industries

徳山博子, 上野信行(住友金属)

その他 Contributed Papers Sessions に16編の申し込みを行なった。

- (2) 第9回国際OR会議参加を機に欧州におけるOR実施状況調査のための視察団を派遣するべく、視察先の選択、交渉などの準備を行なった。

- (3) IFORS が発行する IAOR(International Abstracts in Operations Research) 誌の編集に協力し、日本の文献抄録43編を送付するとともに、IAOR誌の Vol.22, No.1~3, Vol.23, No.1~3 の国内頒布に協力した。

7. 支部活動

各支部ごとに表4のとおり活動した。

表4 支部活動報告書

	北海道	東北	中部	関西	中国四国	九州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 役員会 1回 幹事会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回
研究会	2回	5回	5回 支部研究発表会 1回	研究部会 3件 21回	1回	
講習会						
講演会	2回	1回	2回 月例講演会 1回	5回	3回	月例講演会 1回
出版			支部ニュース 10回 支部研究発表会 アブストラクト 1回			支部ニュース 7回
その他			見学会 1回 懇親旅行 1回 懇親会 2回 小野勝次名誉会員の叙勲を祝す会 1回	ORサロン 1回 春季研究発表会 実行委員会 4回	研究懇談会 2回 ORサロン 1回 広島市におけるゴミ収集計画策定に関する研究懇談会 11回	見学会 1回

8. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞  
第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
- Maximizing a Convex Quadratic Function over a Hypercube  
JORSJ Vol.23 No.2 今野 浩(筑波大学)
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞  
第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞を下記に対して授与した。
- 横山 保(大阪大学)
  - 日科技連グループ  
第6回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及

賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。

- 河田龍夫(慶応義塾大学)
  - 小林宏治(日本電気株式会社)
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞  
第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞を下記に対して授与した。
- 兵庫県  
第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
  - 中国電力株式会社
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞  
昭和55年度より新しく設けられた事例研究奨励賞

の選考は第1回目のことなので過去5年間にわたり発表された研究の中から、下記のとおり決定した。

- 1) 財務諸表を用いた長期経営計画の為のシステムオペレーションズ・リサーチ Vol.22, No.3

西田俊夫グループ

(西田俊夫, 角本武彦, 国村道雄, 品川為紀, 青沼龍雄, 長浜穆良, 真鍋龍太郎)

- 2) 工場群における電力・蒸気の最適供給システムオペレーションズ・リサーチ Vol.23, No.4

瀧口幸弘・金子準二(宇部興産㈱)

- 3) 小売店立地計画の新しい考え方

オペレーションズ・リサーチ Vol.24, No.5

木下知己(三菱総合研究所)

## 9. 研究助成候補者の推薦

昭和55年度の研究助成候補者として下記のとおり推薦した。

### (1) 鹿島学術振興財団

- ・ 伊理正夫(代表), 原野秀永, 韓豊太郎, 岡部篤行, 腰塚武志, 四方野英彦, 中森真理雄, 浅野孝夫, 室田一雄

「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズムの調査研究」

- ・ 青木兼一(代表), 藤永靖彦, 尾崎俊治, 桑原兵二郎, 平木秀作, 権藤 元

「都市廃棄物の処理に関する研究」

- ・ 中易秀敏(代表), 田口賢士, 下条哲司

「国際協力にもとづく発展途上国における海事産業振興計画に関する研究」

### (2) KDDエンジニアリング・アンド・コンサルティング

- ・ 磯道義典

「画像の情報圧縮法の研究(スラローム逆量子化法)」

- ・ 森戸 晋

「電波障害問題に対するオペレーションズ・リサーチ的接近に関する研究調査」

## 10. 他学協会との交流

他学協会の開催した講演会等に下記のとおり協賛、後援をした。

- (1) 第6回システム・シンポジウム
- (2) 第22回自動制御連合講演会
- (3) 第8回計測と制御におけるミニコンとマイクロコンピュータ講習会
- (4) 第23回自動制御連合講演会
- (5) 第7回システム・シンポジウム
- (6) 第4回ビークル・オートメーション・シンポジウム

ウム

- (7) 第31回自動制御講習会

- (8) オフィス・オートメーションセミナーその1, その2

- (9) 第1回数値計画シンポジウム

- (10) 第8回世界コンピュータ会議(IFIP)

## II. 処務の概要

### 1. 通常総会

5月23日に日本電気株式会社本社ビルにおいて昭和55年度通常総会を開催し、以下の報告・審議が行なわれ、原案どおり承認された。

- 議題 (1) 昭和54年度事業報告  
(2) 昭和54年度収支決算報告  
(3) 昭和55年度事業計画  
(4) 昭和55年度予算  
(5) 昭和55年度役員の選任  
(6) 昭和55年度評議員の選任

議事に引続いて普及賞ならびに実施賞受賞者の表彰が行なわれた。

### 2. 理事会

昭和55年3月より理事会を7回開催し、学会の運営について審議検討した。

### 3. 評議員会

定款35条にもとづき4月21日、評議員会を開催し、総会に提出予定の議案につき会長の諮問に応じた。

### 4. 委員会・幹事会等

- (1) 常設委員会  
編集委員会 17回  
研究普及委員会 8回  
IAOR委員会 8回  
表彰委員会 6回
- (2) その他委員会幹事会  
庶務幹事会 8回  
会計幹事会 4回  
モニター委員会 8回  
国際幹事会 3回

### 5. 支部長会議

支部長会議は、3月26日(仙台)と10月6日(東京)の2回開催し、OR学会の諸問題につき意見が交換され、本部と支部の意見調整が計られた。

6. 会員の状況 (表5, 表6)

表 5

	名誉 会員	正会員	学生 会員	賛助会員	計
1980年2月末日	5	1858	177	102 (118.5口)	2142
1980年度入会		117	46	6	169
1980年度移行		+60	-60		
〃		-4	+4		
1980年度退会		-85	-12	-2	-99
1980年度除名		-38	-16		-54
1980年度復活		1	1	2	4
1981年2月末日	5	1909	140	108 (123.5口)	2162

表 6

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員
本 部	4	1173	90	68
北 海 道		53	0	4
東 北		68	2	2
中 部	1	155	2	10
関 西		279	34	13
中国四国		119	10	7
九 州		62	2	4
合 計	5	1909	140	108

昭和55年度収支決算報告書

貸借対照表(昭和56年2月28日)

1. 資産の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
流動資産	現金預金	41,746,343	
	未収金	1,435,840	
	前払金	836,600	
流動資産合計			44,018,783
有形固定資産	什器備品	471,680	
	有形固定資産合計		
資 産 合 計			44,490,463

2. 負債の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
流動負債	預り金	223,498	
	未払金	600,000	
	前受金	18,609,142	
流動負債合計			19,432,640
固定負債	退職給与引当金	5,990,335	
	敷金引当金	1,160,640	
	名簿作成引当金	1,000,000	
	国際協力引当金	2,654,792	
	記念事業引当金	1,242,560	
	別途引当金	3,029,466	
固定負債合計			15,077,793
負 債 合 計			34,510,433

3. 正味財産の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
基本金	基本金		5,000,000
剰余金	次期繰越収支差額 (うち当期増加額)	4,980,030 (470,784)	
	剰余金合計		4,980,030
正味財産合計			9,980,030
負債及び正味財産合計			44,490,463

財 産 目 録

(昭和56年2月28日)

	金 額	
(資産の部)		
I. 流動資産		
1. 現金預金		
(1)現金		
現金手許有高	45,017	
(2)振替貯金		
東京地方郵金局	2,341,873	

		金 額				金 額	
(3)当座預金				(負債の部)			
第一勸業銀行八重洲口支店	25,216			I. 流動負債			
住友銀行白山支店	1,085			1. 預り金			
(4)普通預金				職員に対する源泉所得税外	223,498		
第一勸業銀行八重洲口支店	3,994,155			2. 未払金			
住友銀行白山支店	2,184,205			表彰事業費外	600,000		
(5)定期預金				3. 前受金			
第一勸業銀行八重洲口支店	23,000,000			主として56年度会費前受金	18,609,142	19,432,640	
住友銀行白山支店	10,154,792			II. 固定負債			
2. 未収金				1. 退職給与引当金	5,990,335		
55年度会費外	1,435,840			2. 敷金引当金	1,160,640		
3. 前払金				3. 名簿作成引当金	1,000,000		
抜刷代金外	836,600	44,018,783		4. 国際協力引当金	2,654,792		
II. 有形固定資産				5. 記念事業引当金	1,242,560		
1. 什器備品 複写機外		471,680		6. 別途引当金	3,029,466	15,077,793	
資 産 合 計		44,490,463		負 債 合 計		34,510,433	
				正 味 財 産		9,980,030	

注：基本財産たる資産

定期預金(第一勸業銀行八重洲口支店) 5,000,000

### 収 支 計 算 書

1. 収支計算の部 (昭和55年3月1日から昭和56年2月28日まで)

#### 1) 収入の部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
基本財産運用収入	基本財産利息収入		300,000	337,533	△ 37,533	
事業収入	会誌頒布収入		10,436,000	10,007,174	428,826	
	研究発表会収入		2,330,000	2,984,300	△654,300	
	講演会収入		710,000	1,217,000	△507,000	
	資料等頒布収入		50,000	346,680	△296,680	
	I A O R 収入		405,000	433,800	△ 28,800	
	E J O R 収入		84,000	84,000	0	
入会金収入	正会員入会金収入		200,000	115,000	85,000	
	学生会員入会金収入		50,000	23,000	27,000	
会費収入	正会員会費収入		18,210,000	17,740,931	469,069	
	学生会員会費収入		1,125,000	940,500	184,500	
	補助会員会費収入		9,275,000	8,995,000	280,000	
雑収入	広告収入		2,520,000	2,345,740	174,260	
	受取利息		1,000,000	1,482,707	△482,707	

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
前期繰越収支差額	雑収入		70,000	141,459	△ 71,459	
	会員名簿収入		0	128,000	△128,000	
			4,509,246	4,509,246	0	
収入合計			51,274,246	51,832,070	△557,824	

2) 支出の部

勘定科目			予算額	決算額	差異	備考
大科目	中科目	小科目				
管 理 費	家賃		2,345,600	1,932,000	413,600	
	共益費		715,100	595,920	119,180	
	什器備品費		50,000	6,760	43,240	
	会議費		650,000	413,372	236,628	
	旅費交通費		1,320,000	765,000	555,000	
	通信費		1,228,000	754,828	473,172	
	印刷費		600,000	395,520	204,480	
	消耗品費		500,000	412,253	87,747	
	修繕費		20,000	0	20,000	
	給料手当		5,370,000	5,122,561	247,439	
	福利厚生費		940,000	978,768	△ 38,768	
	臨時雇賃金		900,000	683,500	216,500	
	保険料		30,000	18,150	11,850	
	負担金		42,500	39,200	3,300	
	支払手数料		100,000	98,105	1,895	
	租税公課		20,000	12,000	8,000	
	退職手当引当金繰入額		200,000	200,000	0	
	敷金引当金繰入額		150,000	150,000	0	
	雑費		100,000	85,749	14,251	
	備品償却費		0	200,000	△200,000	
損金		0	1,291,600	△1,291,600		
事 業 費	研究発表会費					
		開催費	1,108,000	1,367,746	△259,746	
		印刷費	1,175,000	884,675	290,325	
	印刷製本費					
		機関誌	12,000,000	12,438,600	△438,600	
		論文誌	2,000,000	1,843,580	156,420	
		印刷費	30,000	560,000	△260,000	
	国際協力費					
		I FORS会費	250,000	260,173	△ 10,173	
		IAOR購入費	300,000	307,825	△ 7,825	
		EJOR購入費	84,000	75,848	8,152	
	研究活動費					
	講演会開催費	271,000	283,100	△ 12,100		
	研究部会費	500,000	500,000	0		

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
		支 部 費	1,662,000	1,662,000	0	
	表 彰 事 業 費		300,000	372,270	△ 72,270	
	会 議 費		700,000	567,025	132,975	
	旅 費 交 通 費		650,000	379,500	270,500	
	通 信 運 搬 費		2,700,000	2,426,491	273,509	
	諸 謝 金		2,100,000	2,014,700	85,300	
	給 料 手 当		6,810,000	6,038,561	771,439	
	消 耗 品 費		582,000	640,908	△ 58,908	
	雑 費		120,000	73,752	46,248	
予 備 費			1,000,000	0	1,000,000	
支 出 合 計			49,893,200	46,852,040	3,041,160	
次 期 繰 越 取 支 差 額			1,381,046	4,980,030	△3,598,984	

社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会定款の一部変更

	現 行	変 更 案
(会員の種類、 会費)	<p>第6条 この法人の会員の種別を次のとおりとする。 正会員および名誉会員を民法上の社員とする。</p> <p>1) 正会員 オペレーションズ・リサーチの研究または実施に関心を持つ個人で、会費年額9,000円を納める者とする。</p> <p>2) 学生会員 オペレーションズ・リサーチの研修に努めている学生で、会費年額4,500円を納める者とする。 学生会員は、卒業と同時に自動的に正会員となる。</p> <p>3) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、その事業を後援し、会費一口以上を納める個人、法人および団体とする。ただし、一口は、年額70,000円とする。</p>	<p>第6条 この法人の会員の種別を次のとおりとする。 正会員および名誉会員を民法上の社員とする。</p> <p>1) 正会員 オペレーションズ・リサーチの研究または実施に関心を持つ個人で、会費年額12,000円を納める者とする。</p> <p>2) 学生会員 オペレーションズ・リサーチの研修に努めている学生で、会費年額5,000円を納める者とする。 学生会員は、卒業と同時に自動的に正会員となる。</p> <p>3) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、その事業を後援し、会費一口以上を納める個人、法人および団体とする。ただし、一口は、年額95,000円とする。</p>
(入会申込)	<p>第7条 会員になろうとする者は、入会金(正会員1,000円、学生会員500円)に会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。</p>	<p>第7条 会員になろうとする者は、入会金(正会員1,200円、学生会員600円)に会費を添えて入会申込書を提出し、理事会の承認を受けなければならない。</p>
附 則		<p>5) 本定款は、文部大臣の認可のあった日から施行し、昭和57年度から適用する。</p>

## 昭和56年度事業計画書

安定成長期の日本経済において、オペレーションズ・リサーチはなお一層の発展・活用が強く望まれている。この社会的要請にこたえ、昭和56年度の事業計画においては、下記のような活動の活発をはかるとともに、引続き会員の増強ならびに財政的基盤の強化に努める。

### 1. 研究発表会、シンポジウム

(1) 研究発表会は、春秋2回開催し、春季は3月12日、13日に大阪府立大学において開催し、秋季は11月26日、27日に筑波大学において開催する。さらに見学会として3月14日に神戸ポートアイランド物流センターを、11月28日には筑波学園都市の見学を行なう。特別テーマは春季は「物流問題」、秋季は「マイコン社会におけるOR」とする。

(2) シンポジウムは11月25日筑波大学において行なう。

テーマは「社会情報システム」とする。

### 2. 通常総会

通常総会は5月15日東京において行なう。

### 3. 研究部会活動

研究部会は「数理計画法(関西)」、「日本における社会システム分析」、「数理計画」、「実施理論」、「創造性開発の数学モデルとコンピュータ・ベイズド・デザイン」、「経営コンサルタント」、「政策問題」、「予測とその周辺課題」、「交通問題」の既設9部会の活動を引続き推進するとともに、新たに「環境システム：主査 有水 疆(農業技術研究所)」、「決定理論とその応用(関西)：主査 坂口 実(大阪大学)」、「決定理論とその周辺(九州)：主査 児玉正憲(九州大学)」、「混雑現象と待ち行列：主査 森村英典(東京工業大学)」、「デシジョン・サポート・システム：主査 松崎功保(日本アイ・ビー・エム)」がその活動を開始する。

### 4. 普及活動

第2回ORセミナーを企画実施する。月例講演会、座談会、学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ、OR普及活動について広く意見を求めるためのモニター制度を継続する。

### 5. 刊行物

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を12号、論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌)を4号発行する。

(2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する。

### 6. 国際協力

(1) 国内のOR文献抄録の作成を通じIAOR誌の発行に協力するとともにIAOR誌の国内頒布を行なう。

(2) 第9回国際OR会議が7月20日から24日までドイツ連邦共和国のハンブルグ市で開催されるので、国際会議への参加および欧州におけるOR実施状況視察団を派遣する。

### 7. 支部活動

各支部において研究会、講演会、見学会等の活動を行なう。

### 8. 表彰

文献賞、実施賞、普及賞ならびに事例研究奨励賞の昭和56年度選考を行なう。

### 9. 受賞・助成金推薦

他の学協会等の依頼に応じ推薦に協力する。

### 10. 他学協会との交流

他学協会との交流を積極的に進める。

### 11. 創立25周年記念事業

標記のため下記の3委員会を設け推進する。

(1) OR学会史委員会

(2) 記念出版委員会

(3) 長期計画委員会

## 昭和56年度予算書

### 1. 収入支出の予算

(昭和56年3月1日から昭和57年2月28日まで)

#### 1) 収入の部

勘定科目			予算額	前年度額	増減(Δ)	備考
大科目	中科目	小科目				
基本財産運用収入						
事業収入	基本財産利息収入		350,000	300,000	50,000	
	会誌頒布収入		12,801,900	10,436,000	2,365,900	
	研究発表会収入		2,805,000	2,330,000	475,000	

勘 定 科 目			予 算 額	前 予 算 年 度 額	増 減(△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
入 会 金 収 入	講 演 会 収 入		247,500	710,000	△462,500	
	講 習 会 収 入		1,200,000	0	1,200,000	
	資 料 等 頒 布 収 入		300,000	50,000	250,000	
	I A O R 収 入		465,000	405,000	60,000	
	E J O R 収 入		84,000	84,000	0	
	視 察 団 参 加 費 収 入		11,700,000	0	11,700,000	
会 費 収 入	正 会 員 入 会 金 収 入		120,000	200,000	△ 80,000	
	学 生 会 員 入 会 金 収 入		25,000	50,000	△ 25,000	
	正 会 員 会 費 収 入		17,994,000	18,210,000	△216,000	
引 当 金 取 崩 収 入	学 生 会 員 会 費 収 入		855,000	1,125,000	△270,000	
	賛 助 会 員 会 費 収 入		9,345,000	9,275,000	70,000	
雑 収 入	記 念 事 業 引 当 金 取 崩 収 入		800,000	0	800,000	
	広 告 収 入		2,480,000	2,520,000	△ 40,000	
	受 取 利 息		2,000,000	1,000,000	1,000,000	
前 期 繰 越 収 支 差 額	雑 収 入		140,000	70,000	70,000	
			4,980,030	4,509,246	470,784	
収 入 合 計			68,692,430	51,274,246	17,418,184	

2) 支出の部

勘 定 科 目			予 算 額	前 予 算 年 度 額	増 減(△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管 理 費	家 賃		2,289,600	2,345,600	△ 56,000	
	共 益 費		715,100	715,100	0	
	什 器 備 品 費		50,000	50,000	0	
	会 議 費		600,000	650,000	△ 50,000	
	旅 費 交 通 費		1,250,000	1,320,000	△ 70,000	
	通 信 費		1,100,000	1,228,000	△128,000	
	印 刷 費		610,000	600,000	10,000	
	消 耗 品 費		600,000	500,000	100,000	
	修 繕 費		20,000	20,000	0	
	給 料 手 当		5,839,600	5,370,000	469,600	
	福 利 厚 生 費		1,104,000	940,000	164,000	
	臨 時 雇 賃 金		892,000	900,000	△ 8,000	
	保 険 料		30,000	30,000	0	
	負 担 金		40,000	42,500	△ 2,500	
	支 払 手 数 料		110,000	100,000	10,000	
	租 税 公 課		20,000	20,000	0	
	退 職 手 当 引 当 金 繰 入 額		200,000	200,000	0	
敷 金 引 当 金 繰 入 額		150,000	150,000	0		

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減(△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
事 業 費	備 品 償 却 費		200,000	0	200,000	
	雑 費		100,000	100,000	0	
	研 究 発 表 会 費					
		開 催 費	1,290,000	1,108,000	182,000	
		印 刷 費	1,250,000	1,175,000	75,000	
	印 刷 製 本 費					
		機 関 誌	12,970,000	12,000,000	970,000	
		論 文 誌	2,000,000	2,000,000	0	
		報 文 集	200,000	0	200,000	
		印 刷 費	150,000	300,000	△150,000	
	国 際 協 力 費					
		I F O R S 会 費	252,000	250,000	2,000	
		I A O R 購 入 費	316,800	300,000	16,800	
		E J O R 購 入 費	90,000	84,000	6,000	
	視 察 団 派 遣 費		11,700,000	0	11,700,000	
	研 究 活 動 費					
		講 演 会 開 催 費	135,000	271,000	△136,000	
		講 習 会 開 催 費	904,000	0	904,000	
		研 究 部 会 費	700,000	500,000	200,000	
		支 部 費	1,738,000	1,662,000	76,000	
	表 彰 事 業 費		200,000	300,000	△100,000	
	記 念 事 業 費		800,000	0	800,000	
	会 議 費		660,000	700,000	△40,000	
	旅 費 交 通 費		650,000	650,000	0	
	通 信 運 搬 費		3,349,000	2,700,000	649,000	
	諸 謝 金		2,030,000	2,100,000	△70,000	
	給 料 手 当		5,839,600	6,810,000	△970,400	
	編 集 校 正 費		1,440,000	0	1,440,000	
	消 耗 品 費		691,000	582,000	109,000	
	表 彰 事 業 引 当 金 繰 入 額		100,000	0	100,000	
	雑 費		100,000	120,000	△20,000	
予 備 費			1,000,000	1,000,000	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額			2,216,730	1,381,046	835,684	
支 出 合 計			68,692,430	51,274,246	17,418,184	

昭和56年度新役員候補者ならびに継続役員名簿

会務役員	定 数	候 補 者	非改選役員名
会 長	1(0)		松田 武彦
副 会 長	3(2)	本告 光男 渡辺 浩	今川 貞郎
庶 務 理 事	3(1)	川野幸三郎	浜 民夫 柳井 浩

会 計 理 事	1(0)		中井 直男
研 究 普 及 理 事	2(1)	古林 隆	池田 孝
編 集 理 事	2(1)	小林 龍一	伊理 正夫
国 際 理 事	1(1)	高森 寛	
無 任 所 理 事	3(1)	飯原 慶雄	青沼 龍雄 新沢 雄一 名和小太郎
監 事	2(1)	宮川 公男	

( ) 内は56年度改選数